

エミレーツ・グループ 2022-2023 通期業績を発表



【詳細】

2023年5月11日(ドバイ現地時間)、エミレーツ・グループは2022-2023の通期業績を発表し、各事業の需要増を背景に、前年の赤字業績から一転して**過去最高の利益を計上**したことを報告しました。

世界的な渡航制限がほぼ全て解除されたことを受けて、エミレーツ航空と dnata の両社が航空輸送・旅行関連事業を拡大したことにより、当期の大幅な増収へと繋がりました。

2023年3月31日までの当期1年間、エミレーツ・グループ全体では、前年の38億ディルハム(10億米ドル)の損失に対し、当期は109億ディルハム(30億米ドル)と過去最高の利益を計上しました。グループ収益は、前年比81%増の1,198億ディルハム(326億米ドル)、グループのキャッシュバランスは、主要事業部門および市場における力強い需要回復により、前年比65%増の過去最高425億ディルハム(116億米ドル)となりました。

エミレーツ・グループおよびエミレーツ航空の会長兼最高責任者であるシェイク・アハメッド・ビン・サイド・アル・マクトゥーム殿下は次のように述べています。「2022-2023の通期業績はエミレーツ・グループの完全な回復を示しただけでなく、過去最高の利益を記録しました。この成果は、UAE副大統領兼首相でありドバイの統治者でもあるシェイク・モハメド・ビン・ラシド・アル・マクトゥーム殿下のリーダーシップなくしては、成し遂げられなかったことです。ドバイの先進的な経済政策の立案者であるシェイク・モハメド殿下は、エミレーツ・グループの軌跡を支えるエンジンでもあります。彼の推進力とサポートがなければ、エミレーツ航空の規模は今の半分に縮小していたことでしょう。

私は、エミレーツ・グループが当期過去最高の業績を計上し、そして、貨物や旅行サービスを含めた航空市場全体の復興に貢献できたことを誇りに思います。中でも、2022年のドバイの外国人観光客が前年比97%増を記録したことは驚異的でした。エミレーツ・グループは、77万人以上の雇用を抱え、470億米ドル(1,725億ディルハム)以上をGDPに貢献していると推定されてい

ることから、UAE の航空市場における最大かつ重要な企業です。当社の成長計画およびドバイ経済アジェンダ（D33）に基づき、直接的・間接的雇用、サプライチェーン支出、観光支出、貨物の輸送による貿易・通商の利益向上を実現することで、今後 10 年の間に UAE の GDP へより一層貢献できると考えています。」

当期の業績好転について、**シェイク・アハメッド**は次のように述べています。「我々は航空事業の力強い回復を信じてきました。そのため、渡航制限が撤廃され旅客需要が高まったとき、迅速かつ安全に事業を展開する準備が出来ていました。また、製品やサービスの質向上のために継続的な投資をしてきた結果、お客様から高い評価をいただき、業界をリードする存在で居続けられました。その結果が、過去最高である 2022-2023 通期業績とキャッシュバランスです。これは、エミレーツ・グループのビジネスモデルの強さ、慎重な将来計画、全従業員の献身的な努力、航空・旅行エコシステムにおける強固なパートナーシップの成果を反映しています。」

運航の更なる拡大と将来性の強化を目指し、エミレーツ航空と dnata は当期、世界中で採用活動を積極的に行いました。その結果、グループ全体の**従業員数**は 20% 増となり、現在 160 以上の国と地域で構成される 102,379 人が働いています。

当期、エミレーツ・グループは将来の成長に向けて事業を強化するため、72 億ディルハム（20 億米ドル）を新型航空機、施設、設備、企業、最新技術に投資しました。これには、次のものが含まれています：

1. 数十億ドル規模のキャビン改修
2. 新型 777 貨物機 5 機の発注
3. パイロット訓練センターの建設
4. CropOne との提携により、ドバイに世界最大の垂直農園「Bustanica」を開設
5. エミレーツ航空訓練アカデミーの幹部候補生のための練習機
6. ブラジルにおけるグランドハンドリング業務の完全子会社化に向けて dnata が 30% の株式を取得
7. イラクのエルビルに先進的な貨物施設を建設

エミレーツ・グループは当期も、サステナブルな社会の実現に向けて様々な取り組みを行ってきました。特筆すべきは、エミレーツ航空と dnata の国連グローバル・コンパクト（UNGC）への加入です。また、2025 年までに中上級管理職の女性比率を 30% に引き上げるという UAE ジェンダーバランス協議会の誓約にも署名しました。我々はこれからも、国連の掲げる持続可能な開発目標（SDGs）を自社の戦略・文化・業務の一部に据え、主体的に持続可能な社会の構築を目指して参ります。

エミレーツ航空のさまざまな環境問題への取り組みの中で当期最も注目すべきは、2023 年 1 月に成功した、持続可能な航空燃料（SAF）を 100% 使用したエンジン 1 基が搭載されたボーイン

グ777の実証飛行です。この地域初の取り組みは、100%SAF飛行の未来を実現するために航空業界全体が取り組んできた活動を立証するものとなりました。dnataは、2022年からの2年間で、グローバル事業における環境効率を高め、2030年までに二酸化炭素排出量を50%削減するために、1億米ドル（3億6,700万ディルハム）を投資することを約束しています。

また、エミレーツ・グループは当期、パキスタンの洪水やトルコ・シリア大地震で被災された方々への支援活動を始めとし、コミュニティ再生や人道的支援活動に取り組んできました。

さらに、イノベーション・インキュベーターへの参加や航空技術者の育成などを通じて、航空業界全体の未来にも貢献していきます。

シェイク・アハメッドは今後の展望について次のように述べています。「当期は、ほぼ全ての業務を再開させることができただけでなく、人材・製品・新技術に投資し、事業基盤を整えたことで、当グループのアジリティと技術力を発揮することができました。我々は、今後の成功のためにも強固な基盤を築き、パートナー企業と協力して事業を拡大しながら、航空業界に革新的なソリューションを提供していきます。また、業務の拡大に伴って、私たちがサービスを提供している地域にも貢献することができました。環境への影響を最小限に抑えながら、私たちはこれからもお客様やステークホルダーの皆様になんらかの新たな価値を提供して参ります。

エミレーツ・グループは明るい見通しを持って2023年度を迎え、引き続き業績を維持できるものと考えています。インフレ、燃料費の高騰、政治・経済の不確実性などを予測しながら、目標達成に向けて努力して参ります。」

エミレーツ航空の業績

渡航制限の解除に伴い旅客サービスを順次再開したことで、当期のエミレーツ航空の**旅客および貨物の総容量**は前年比32%増の482億有効輸送トンキロ（ATKM）となりました。

お客様からの強い要望に応えるため、当期はテルアビブへの就航を始めとし、6空港への再就航と62都市への増便を行いました。2023年3月31日時点、貨物機のみ運航する9都市を含む6大陸150地点へサービスを展開しています。

また、当期はフラッグシップ機であるエアバスA380型機のネットワークを43地点まで拡大しました。

お客様がより多くの地点へご旅行いただけるよう、我々は当期、ユナイテッド航空やエア・カナダを始めとした様々な航空会社とコードシェア・パートナーを結びました。その結果、マイレージプログラムを相互利用しつつ、アメリカ大陸200地点以上へ簡単にアクセスできるようになりました。また、カンタス航空およびフライドバイとの戦略的パートナーシップを強化したほか、

エアリンク、エーゲ航空、ITA エアウェイズ、エア・タンザニア、バンブー・エアウェイズ、パティック・エア、フィリピン航空、ロイヤル・エア・モロッコ、スカイ・エクスプレスが新たなインターライン・パートナーおよびコードシェア・パートナーとなりました。

エミレーツ航空は、当期**新型ボーイング 777 型貨物機** 2機を受領しました。また、エアバス A380 型旅客機 2機、ボーイング 777-300ER 型旅客機 1機、貨物機 1機の計 4機の旧型機が段階的に退役し、3月末時点の保有機数は 260機、平均機齢は 9.1年となっています。

当期の発注は、既に発表されたボーイング 777-300ER 貨物機 5機の追加発注を含め 200機です。ブランドのスローガンでもある「Fly Better」に基づき、エミレーツ航空は、環境に優しく、操作性に優れ、お客様に心地よい空の旅を提供できる、燃費効率のいい新型機種を運航する戦略を堅持しています。

ほとんどの市場が急速に動き出したことにより、当期の**総収益**は前年比 81%増の 1,074 億ディルハム (293 億米ドル) でした。主要市場の為替変動 (特にユーロ、ポンド、パキスタン・ルピーの切り下げ) は、航空会社の収益性に 45 億ディルハム (12 億米ドル) のマイナスの影響を及ぼしました。

総運営費は、前年から 57%増加しました。当期の運営費は所有コスト (減価償却費) と燃料費の 2つが最も大きく、次いで人件費が大きな割合を占めました。燃料が占める割合は、前年の 23% に対し、当期は 36%を占めました。燃料価格が平均 48%高騰する中で輸送量が 49%増加したことにより、燃料費は前年比 143%増の 337 億ディルハム (92 億米ドル) となりました。

世界的なパンデミックによる渡航制限が解除されたことにより、前年の 39 億ディルハム (11 億米ドル) の損失に対し、当期は 106 億ディルハム (29 億米ドル) の利益を計上し、業績は大幅に改善しました。**利益率**は 9.9%となり、過去最高の業績を達成しています。

今年度、当社の**乗客数**は 4,360 万人 (前年比 123%増)、**提供座席数**は前年比 78%増でした。また、前年の 58.6%に対し、当期は 79.5%の**座席利用率**を報告しました。機内設備や路線構成、運賃、通貨の影響により、**旅客イールド**は前年比 7%上がり、有償旅客トンキロ (RPKM) は 37.5 フィルス (10.2 米セント) に増加しました。

エミレーツ航空は、これまで以上に優れた顧客体験を提供するために、商品とサービスへの投資を続けました。当期は、プレミアム・エコノミーの座席を導入し、お客様からご好評いただいたほか、最新機内設備を搭載した A380 型機 6機を就航させました。最新のコンセプトストアであるエミレーツ・ワールド (順次他マーケットにも展開予定) もオープンし、さらには、A350 型機の新世代機内エンターテインメントシステムに 3 億 5,000 万米ドルを投資することも発表しました。

お客様に迅速かつ安全な旅を提供するため、デジタル技術も引き続き強化しています。エミレーツ航空は、ドバイの在留外国人総局と生体認証データ協定を結び、お客様到着後のお手続きを迅速に進められるよう努めて参ります。

エミレーツ・スカイカーゴは、供給容量が減少したにもかかわらず、コロナ禍で一時的に「ミニ貨物機」に変更された航空機が旅客機に復帰したため、エミレーツ航空総売上高の16%に貢献し、顕著な業績を収めました。

また当期、貨物部門は、その高度な技術とインフラを基に低温流通におけるリーダーシップを発揮し、新型コロナワクチンやその他医薬品、生鮮品の輸送網を提供する重要な役割を果たしました。

エミレーツ・スカイカーゴは、顧客を中心に据えながら、市場へ革新的なソリューションを提供し、保有機材およびネットワークを有効活用することで、世界の航空貨物業界における優位性を保ってきました。当期はさらに、貨物部門がユナイテッド航空およびエア・カナダと基本合意書を締結し、ネットワークとキャパシティを拡大しました。また、お客様ご自身で貨物機を予約し、輸送手続きができる新たなデジタルサービス WebCargo を導入したほか、UAE のお客様向けに e コマースの輸送ソリューションを提供する Emirates Delivers UK を立ち上げました。

さらには、人道的支援を行うグローバルハブであるドバイ国際人道都市(DIHC)との提携により、パキスタン、トルコ、シリアへの救援物資輸送に技術と能力を注ぎました。

年間を通じて航空貨物需要は安定し、エミレーツ航空の貨物部門の**売上高**は、パンデミックにより貨物需要が例外的に高まった前年を21%下回る172億ディルハム(47億米ドル)となりました。

世界市場における貨物容量の回復に伴い、貨物輸送トンキロ(FTKM)あたりの**イールド**は前年比3%の増加となりましたが、コロナ禍の堅調な需要を背景に概ね高水準を維持しました。

貨物輸送量は、旅客サービス再開により、利用可能な貨物容量が減少したため、前年から14%減の180万トンとなりました。年度末時点でエミレーツ・スカイカーゴが保有する総貨物機数は、ボーイング777F型機11機となっています。

エミレーツのホテル事業はドバイを中心とした観光客の増加を反映し、売上高は前年比12%増の6億7,500万ディルハム(1億8,400万米ドル)となりました。

この1年間、エミレーツ航空は契約上の責務を果たす技術とコミットメントを一貫して示してきました。航空機の融資負債を期日通りに返済することに加え、コロナ禍の負債総額175億ディルハム（48億米ドル）のうち、30億ディルハム（8億1,700万米ドル）以上を返済しています。また、当期は45億ディルハム（12億米ドル）のリースを再編し、さらに12億ディルハムを調達したことから、イスラム金融のリースを通じて新型B777貨物機2機の資金を有効なマージンにて調達することができました。

金利が上昇する中、エミレーツ航空は巧みにエクスポージャーを管理し、金利変動が収益に与える影響を効果的に軽減しました。さらに、通貨リスク管理プログラムにより、先渡取引やナチュラルヘッジを含むヘッジ戦略を採用し、継続的な財務の安定性と回復力を確保しました。

エミレーツ航空の2022年3月期の**現金資産**は前年比79%増の374億ディルハム（102億米ドル）という高水準となりました。

dnataの業績

dnataのほぼ全ての事業がパンデミックから回復し、当期の**利益**は前年比201%増の3億3,100万ディルハム（9,000万米ドル）となりました。

世界各地でフライトや旅行需要が加速する中、dnataの**総売上高**は前年比74%増の149億ディルハム（41億米ドル）に上りました。国際事業の売上高は全体の72%を占め、前年比10%ポイント増となりました。dnataは年間を通じて、英国、米国、欧州、オーストラリアなどの主要市場における労働力不足とインフレ上昇の課題を顧客と緊密に連携して解決してきました。

dnataはさらなる成長に向けて基盤を築くべく、当期は4億6,700万ディルハム（1億2,700万米ドル）の投資を行いました。これには、オランダ・アムステルダムの新貨物センター、イラク・エルビルの最新貨物・地上サービス設備、ビジネス機能のデジタル化・自動化を図る先進的な「OneCargo」システムの世界展開、ドバイとザンジバルでのマルハバ事業の拡大が含まれます。また、シドニーでは、高効率エネルギーの設備と機器アップグレードを行ったケータリング施設を再開させました。

dnataの当期の**運営費**は、世界各地の空港オペレーション事業、機内ケータリング事業および旅行サービス部門の業務拡大や、人件費や食料供給を中心とした全市場でのインフレ圧力の影響を受け、前年比74%増の146億ディルハム（40億米ドル）となりました。

dnataの**キャッシュバランス**は、前年から2億ディルハム改善し、51億ディルハム（14億米ドル）となりました。財務活動に使用された純現金は、主に借入とリースの実施で9億600万ディルハム（2億4,700万米ドル）に達した一方で、重要な投資活動に5億2,800万ディルハム（1億4,400万米ドル）の純現金の支出がありました。当期の営業活動におけるキャッシュフローは

売上高の大幅な改善が反映され、14 億ディルハム（3 億 8,100 万米ドル）の黒字となりました。

グランドハンドリングと貨物ハンドリングを含む **dnata の空港オペレーション事業**の売上高は、72 億ディルハム（20 億米ドル）に増加しました。

dnata がグローバルで取り扱う航空機の回転数は 35%増の 712,383、貨物取扱量は 8%減の 270 万トンとなりました。これには、パンデミックによる規制が解除され、dnata の顧客がサービスを再開したことにより、各市場でフライトが増加したことが影響しています。

当期、dnata はザンジバルのアビード・アマニ・カルーム国際空港の新設ターミナルでグランドハンドリング業務を開始しました。また、エミレーツ・レジャー・リテール（ELR）および MMI とともに、ターミナル内のすべての飲食・免税・商業店舗の営業権保有者となりました。GTA グループとの提携によりカナダでも事業を拡大し、カルガリーやバンクーバーで高品質で安全な貨物サービスを提供しています。

dnata の総売上高のうち、**dnata の機内ケータリングおよび小売事業**の売上高は 48 億ディルハム（13 億米ドル）を占め、前年比 187%増加しました。機内ケータリング事業は、顧客である航空会社の運航状況回復に伴い、昨年約 3 倍となる 1 億 1,140 万食を提供しました。

また同事業は、特にオーストラリアと主要市場である英国、米国でのパンデミック後の需要増加に対応するため、大幅な増産を行いました。また、サプライチェーンの問題や食品インフレに対応するため、顧客と幅広く連携してメニューの改善に取り組みました。

UAE では、dnata の子会社であるアルファ・フライト・サービス（Alpha）が、ラス・アル・ハイマ国際空港に就航する航空会社 10 社以上に機内ケータリングサービスを提供し、3 つの飲食店および空港ラウンジを運営するコンセッション契約を締結しました。

dnata の機内ケータリング部門は、当期、オーストラリアの新しい航空会社であるボンザ社およびエアインディア社との長期利権契約を結び、ロンドン、バーミンガム、ミラノ市場に参入しました。また、ユナイテッド航空とエーデルワイス航空との契約によりヨルダンで、そしてルフトハンザ航空とスイスインターナショナルエアラインズとの契約によりシンガポールでサービスを展開しています。

同社の**旅行サービス部門**の売上高は、227%増の 23 億ディルハム（6 億 1,800 万米ドル）となりました。総取引額（TTV）は昨年から大幅に増加し、203%増の 70 億ディルハム（19 億米ドル）となり、パンデミック発生に伴う予約キャンセルの影響から回復しつつあった前年の状態を反映

しています。

dnata 代理店サービスは当期、欧州のルフトハンザ航空に対する既存顧客のサービスサポートを強化しました。また、アメリカン航空との業務を拡大し、インドの総代理店に幅広いセールス・マーケティングサービスを提供しました。これに加え、世界有数の B2B 旅行プラットフォームであるアメリカン・エクスプレス・グローバル・ビジネス・トラベルの中東における優先旅行パートナーとなり、また、クラブメッドとの長期にわたるパートナーシップを強化することで、湾岸協力会議諸国（GCC）のお客様に、特別料金で個別旅行プランを提供しています。

小売り事業の拠点を増やすため、dnata は、UAE のドバイヒルズに新しいトラベルストアをオープンしました。これはドバイ旅行の人気の加速したためで、例えば、アラビアン・アドベンチャーズはドバイ砂漠保護区で「オーバーナイト・サファリ」を拡大・強化し、この目玉である「ジープ・アドベンチャー・サファリ」がバージョンアップして再開されました。

さらに、dnata のレジャー卸売会社であるヤラゴ（Yalago）が各地域の担当チームを拡大したことにより、今期のホテル予約は前年比 92%増を記録しました。